

むかし、あるところに、なかのいいおじいさんと
おばあさんがおりました。

ある日、おじいさんは山のはたけで、

まめまきをしていました。

おじいさん

♪一つぶのまめは千つぶに

二つぶのまめは万^{まん}つぶになあれ

一つぶのまめは千つぶに

二つぶのまめは万^{まん}つぶになあれ

するとそこへ、たぬきがかおをだしました。

たぬき「へっへっへ。ほれほれ、

一つぶのまめは一つぶのまんまじゃ」

おじいさん「おまえはいつもはたけをあらしとる

たぬきだな。しっしっ、あっちへいけ」



たぬき「あっかんべーだ。ぱくぱくぱく」

おじいさん「このわるだぬきめ！そりゃー！」

(ポコッ)

(パタン)

くわはみごとたぬきにめいちゅう。

おじいさんは、きぜつしたたぬきをかついで

家いえにかえりました。



おじいさん「ばあさんや、ばあさんや。ほれわるいたぬきを

つかまえた。こんやはたぬきじるじゃ。米こめをついとくれ」

おばあさん「はいはい。わかりましたよ」

おじいさんは、たぬきを天じょうにくくりつけると、

また、はたけにでかけていきました。

(とんとんとん、とんとんとん)

おばあさんは、もみがらのついた米こめをつきはじめました。

(とんとんとん、とんとんとん)

たぬき「ばあさん、ばあさん」

おばあさん「うん？なんじや」

たぬき「一人で米つきはたいへんじゃろ。

おらがてつだってやるから、

このなわをほどこいてくれ」

おばあさん「だめじゃ、だめじゃ。うまいことを
いってにげるつもりじゃろ」

たぬき「かわいそうなたぬきのおねがいじゃ。

しぬ前まえに人だすけがしたいんじゃよ」

おばあさん「うーそんなにいうなら

しかたねえなあ」

おばあさんはたぬきのなわをほどこいてやり、

二人は米つきをはじめました。



(とんとんとん、とんとんとん)

たぬき「ばあさん、これくらいかのう?」

おばあさん「どれどれ」

おばあさんがうすをのぞきこんだその時ときです。

(ズドン)

おばあさん「ひゃあ…」

たぬき「へっへっへっ…」

たぬきはきねでおばあさんをなぐりたおすと、

まんまと山へにげていきました。



おじいさん「ばあさん、かえったぞ…。あ、ばあさん！

しっかりしろー！ばあさん！ああ、うううう……」

そこへ、うさぎがやって来ました。

うさぎ「じいさま、なんでないとるんじや？

ば、ばあさまー！」

おじいさん「うう……。たぬきのやつに、

ばあさんをころされてしもうた」

うさぎ「あのわるだぬきめ。

おらをかわいがってくれたやさしいばあさまに

なんてことを！じいさま、ばあさまのかたきは、

おらがきつと、とってみせるー！」



(がたがた)

うさぎがかや山でかやをかっているよ、

たぬきがやって来ました。

たぬき「おい、うさぎどん。なんでかやをかつとる?」

うさぎ「やあ、たぬきどん。

冬はとてもさむいから、

かやであったかい小屋をつくろうとおもってな

たぬき「そんなら、おらもてつだうから、

その小屋に入れとくれよ」

うさぎ「ううむねね」



うさぎとたぬきは、かりおわったかやをせおうと、
山を下りはじめました。

(かちかち、かちかち)

たぬき「ん？うさぎどん、

かちかちいうのはなんの音だ？」

うさぎ「かちかち山のかちかち鳥どりがないとるんじゃ

たぬき「そうか、そうか」

でもじつは、うさぎが火うち石をかちかちうって、

たぬきのせなかのかやに火をつけていたのです。



ぼしぼう、ぼしぼう

たぬき「ん？うさぎどん、ぼうぼうというのはなんの音だ？」

うさぎ「ぼうぼう山のぼうぼう鳥ひねがないとるんじや」

たぬき「そうか、そうか。あ、ん？あつい、あつい！

たすけてくれ、うさぎどん！うさぎどん……！」

かやはみるみるもえ上がり、たぬきのせなかはまるやけになりましたが、うさぎはしらんかおでにげてしまいました。

(ゴロンゴロン、ゴロンゴロン)

つぎの日、たぬきがうさぎの家いえにやってきました。

たぬき「いててて…。おい、うさぎ。きのうはひどい目に

あわせてくれたな！」

うさぎ「なんのことじゃ？それは、かちかち山の

うさぎじゃろ。おらは、とうがらし山のうさぎじゃ。

きのうから、ここですっと、やげとによくきく

みそを作っとる」

たぬき「そうか。すまんかった。

なあ、そのみそ、おらのせなかのやけどにぬってくれ。

いたくてたまらんのじゃ」

うさぎ「よしきた。ぬってやろう」

(ぺたぺた)



でもじつは、うさぎはみそにとוגらしを
たつぷりと入れていたのです。

たぬき「あわわ、いたい、あつい！いたい、あつい！

たすけてくれ、うさぎどーん！」

たぬきはそこらじゅうをころげまわりましたが、

うさぎはしらんかおでにげてしまいました。



(「ん、ん」)

つぎの日。

うさぎがまつの木をきっていると、たぬきがやって来ました。

たぬき「おい、うさぎ。きのうはひどい目にあわせてくれたな！」

うさぎ「なんのことじゃ？ それは、とうがらし山の

うさぎじゃろ。おらは、まつの木山のうさぎじゃ。

きのうから、さかなここでずっと、魚とりのふねをつくつとる」

たぬき「そうか。すまんかった。

なあ、おらのふねもつくってくれ」

うさぎ「いともね」



うさぎはじぶんには木のふねを、

たぬきにはどろのふねをつくりました。

二人は川へくりだしました。うさぎがうたいます。

うさぎ♪木のふねすいすいえんやあとな

(ぽんぽん)

どろぶねぶくぶくえんやあとな

(ぽんぽん)

うさぎ「ほれ、たぬきどんも、やってみろ」

たぬき「ははーよしきた」

たぬき♪木のふねすいすいえんやあとな

(ぽんぽん)

どろぶねぶくぶくえんやあとな

(ぽんぽん)



(わっしゅっ、ぶっぶっぶっぶっぶっ…)

でもじつは、どろのふねは水によわかったのです。

それをたぬきが力いっぱいたたいたものだから、

どろのふねはわれてしずみはじめました。

(ぶっぶっ、ぱちぱちぱち)

たぬき「およよ、おらはおよげないんだ。

たすけてくれ、うさぎどんー！うさぎどんー！」

(ぶっぶっ…)

たぬきは川のそこへしずんでいきましたが、

うさぎはしらんかおでにげてしまいました、とわ。



お
わ
り